



赤石沢から赤石岳 2012年8月9日～12日

山本恵昭

浪川さん67歳、大森さん57歳と私54歳、甲南中高年メンバーで南アルプスの名渓、赤石沢へ行ってきました。



赤石沢の大ゴルジュ

8月9日、畑薙ダム駐車場から東海フォレストの送迎バス1時間ほどで牛首峠へ。

遊歩道を少し歩いて川原へ下り、沢準備を整えて9:00出発。美しい沢であるが、下部は水量が少なく迫りに欠ける。1か所へつることができない淵が現われ、空身で泳いでザックと後続をロープで手繰り寄せ。取水ダムに13:00到着。取水ダムより上は水量も増え、北沢出合を越えるとまた滝が連続し名深らしくなる。

14:30 門の滝15mは、中央に巨大なチョックストーンを抱え、堂々としてなかなかの迫力である。ここはロープを出して確実にビレイ。右岸の草付き岩を登って、残置ハーケンを頼りに外傾したバンドを落ち口へトラバースする。ここで落ちたらロープで止まってもチョックストーンの間を挟まり滝の水流で溺れてしまうなどと想像しながら、緊張のトラバース。15:30次は洞窟の滝10m、ここもロープを出し、空身で登る。洞窟内の残置テープをアブミにして岩の間をすり抜け、出口の狭い穴から這い出る。洞窟の外から3人分のザックを吊り上げ、後続をビレイ。

大ガランを越えた川原を泊地とする17:00。盛大な焚き火とイワナ塩焼きの予定であったが、先行パーティに釣られた後で釣果0尾。焚き火の横で寝てしまう。

8月10日7:30発、ここから上部の川床はラジオリリア板岩が多くなる。海に住んでいた放散虫というプランクトンが変成した赤いチャート岩である。さすが赤石沢、赤い岩と青緑の水のコントラストがなんとも素晴らしい。



赤石沢ラジオラリア板岩

8:30 大ゴルジュに到着。ここは右岸の大高巻き。シシボネ沢のガレを少し上って樹林帯の踏跡を辿る。途中、かなりの高度感で足を滑らせたら下の滝までまっさかさまという感じなので、念のためロープを出して1ピッチ分ビレイした。1時間ほどかけて川原へ戻る。

大釜まで行くつもりが、疲れて深い釜を持った3段の滝上で休憩。ふと見ると大イワナが……。我儘を言って大休止にしてもらい、ちょっと釣りタイム。大森さん達が急遽流木を

集めて下さり、3尾塩焼きに。

13:00 少し進むと明るく開けた大釜に到着。滝は小さいのに、均整の取れた深く美しい釜である。しかも大物イワナが一杯悠然と泳いでいる。しかし、さすがに先を急ぎたい浪川さんにもう一度釣りタイムとは言い出せず、膝まで浸かり水中カメラで撮影のみとする。

16:00 百間洞沢出合に到着。最適な泊地があり、今日はここまで。テント設営と焚き火は大森さんたちにお願ひして、食糧確保に再び下流に。飛びまわっている白い蛾を捕まえて餌にすると、盛んに食いついてくる。先日武田さんに頂いた毛ばりを使うと、一発で大物が釣れた。8尾確保し塩焼きとみそ焼きに。時間を忘れて豪快な焚き火を楽しんでいると、日付が変わっていた。



大釜の尺イワナ水中撮影

8月11日、6:30 発。小滝を次々と越えていくと百間洞大滝に到着7:30。左岸の草付を登り、落ち口ヘスラブのトラバース。ここも落ちると終わりなのでロープを出して確実にいく。



赤石沢武田さんに頂いた毛鉤で大岩



おかず 8尾

遙か遠い赤石岳へあとは源流部をひたすら登り、9:00 百間洞山の家に着く。小屋前のベンチを使わせてもらって、のんびりと沢装束から一般登山姿に変身し、10:00 に出発。沢の緊張が解けて、荷物が一步步重くなっていく。長い道のりを何とか赤石岳山頂に 13:45 到着。急な下り道をひたすら辿るが、足が棒になっていく。16:00 頃から雷が鳴り雨も降り出す。コテパテで赤石小屋に 16:40 到着。素泊まり、雨で濡れた物も乾き快適。

8月12日、6:00 にのんびり出発。昨夜のストレッチ効果も歩き始めの 30 分のみ。すぐ

に膝はガクガク、なんとか樫島に 9:30 到着。畑薙ダムへ戻り、入浴、お土産に茶葉を買ったりそばを食べたりしていると、高速道路の大渋滞に巻き込まれ、23:00 神戸に帰宅。

赤石沢は、以前から名溪としての噂を聞いていて、一度は訪れてみたいと思っていました。取水ダムが出来て「沢の王者」と呼ばれた昔の面影はなくなったといわれていますが、変化に富んだ素晴らしい沢でした。南アルプスの豊かな緑と豊富なイワナ、沢に 2 泊して焚き火と釣りを堪能しました。最後に、右手に聖岳、左手に荒川岳を望みながら、赤石岳 3120m に登り上げるのもご愛嬌か。ただし、中高年にとっては体力的に厳しい。鉄人浪川さんもさすがに苦労されていました。



遙か遠い赤石岳へ